

# 岐阜市文化芸術に関する市民意識調査結果 概要版

## 一般

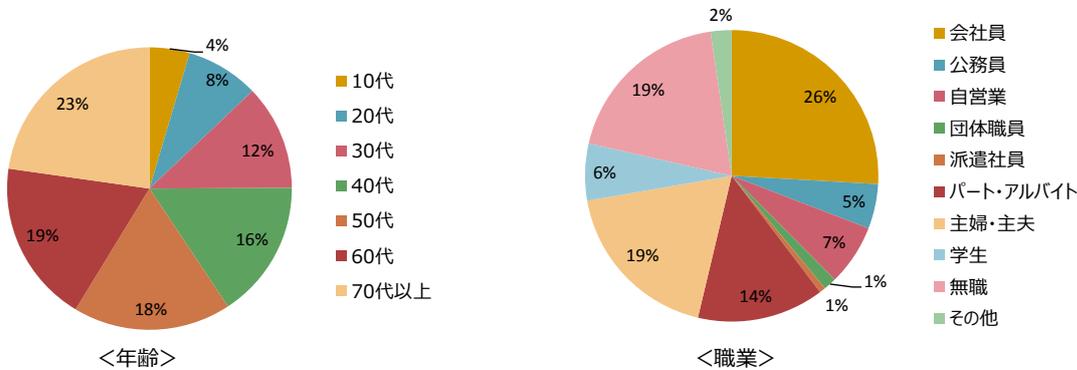
### ■調査概要

- 調査目的： 市民の文化芸術に関する意識、ニーズの把握から、平成 18 年度策定の「岐阜市芸術文化振興指針」を見直し新たな指針を策定する基礎資料とする。
- 調査方法： 16 歳以上の岐阜市民を対象に 3,000 人を無作為に抽出。調査票を郵送配布、郵送回収。
- 実施時期： 平成 28 年 11 月
- 回収結果： 回答数 1,502、回答率 50.1%（配布 3,000）
- 調査項目：
  - ・設問 1 回答者属性
  - ・設問 2 文化芸術への関心や取り組み
  - ・設問 3 文化芸術に関する市の取り組みの重要性
  - ・設問 4 文化施設の利用状況
  - ・設問 5 市の文化施設に望むこと
  - ・設問 6 子どもが文化芸術に関心を持つための取り組み
  - ・設問 7 自由記述

### 設問 1 回答者属性

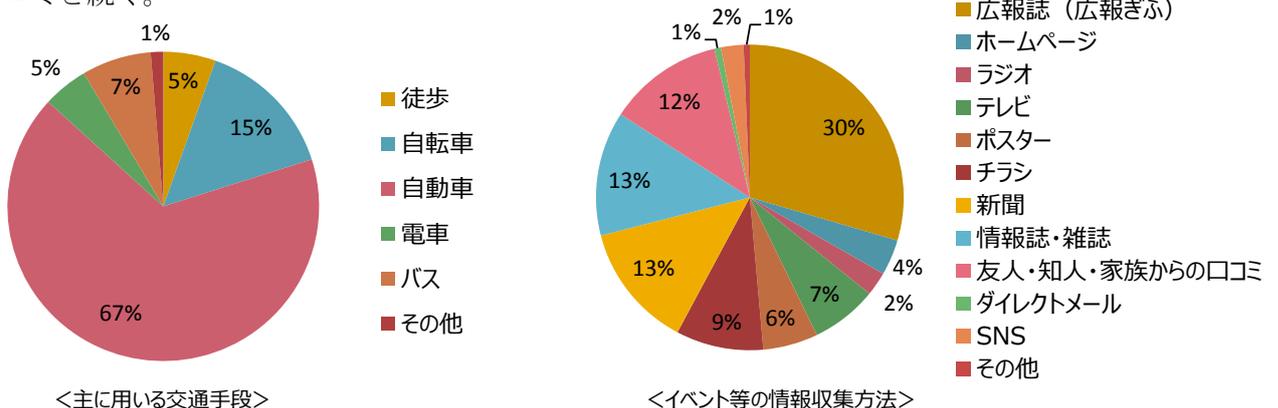
#### ■年齢、職業

- ・アンケート回答者は、70 代以上が 23%と最多で、若くなるほど割合が小さくなる傾向にある。30 代、20 代でもそれぞれ 12%、8%であり、比較的幅広い年齢の方々に回答していただいた。
- ・回答者の職業は、会社員、主婦・主夫、無職の割合が高い。



#### ■普段主に用いる交通手段、イベント等の情報収集方法

- ・回答者が主に用いる交通手段は自動車が 67%最も高い。
- ・岐阜市のイベント情報の入手方法で最も高いのは「広報ぎふ」からが 30%であり、以下、新聞、情報誌・雑誌、口コミと続く。

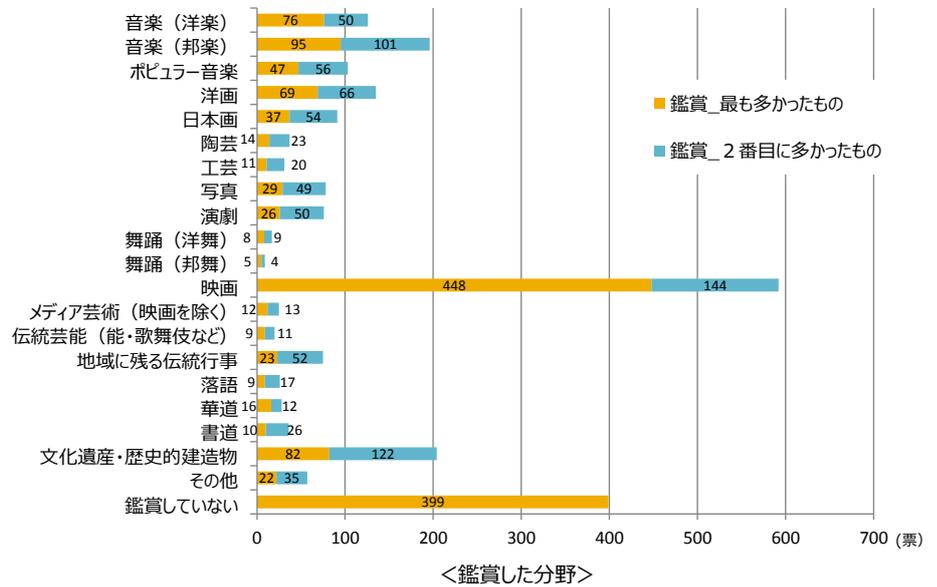


## 設問 2 あなたの文化芸術への関心や取り組み

### ① 1年間に自宅以外で鑑賞したことがあるもの（最も多かったもの、2番目に多かったもの）

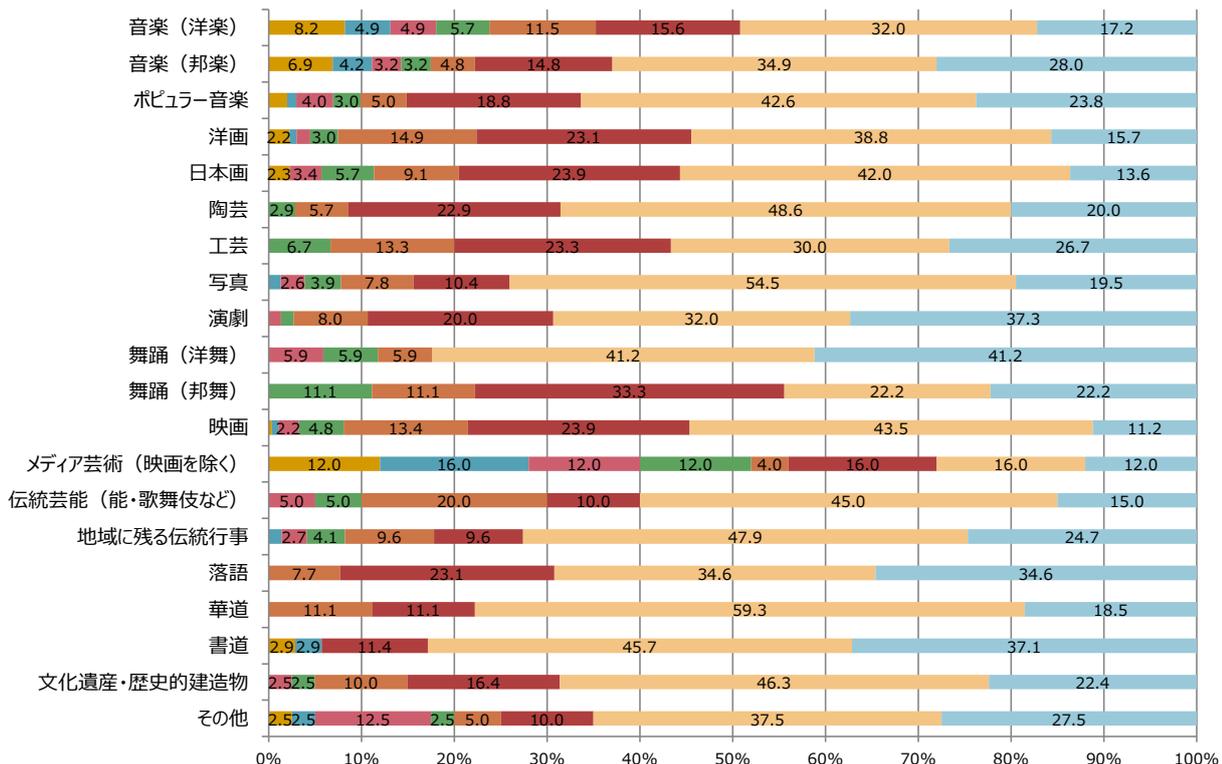
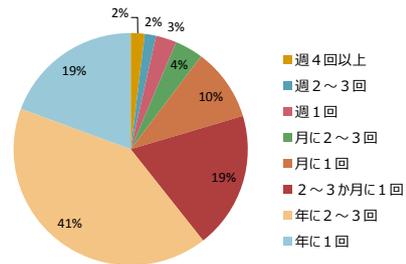
#### <鑑賞した分野>

- ・自宅以外で鑑賞したもののうち、最多は「映画」、次いで「文化遺産・歴史的建造物」「音楽（邦楽）」となっている。
- ・“最も多かった”のみで見ると、「映画」が約30%（448/1502）、続いて、「音楽（全ジャンル合計）」で約15%となっており、3番目以降の分野を大きく離している。
- ・自宅以外で何も鑑賞をしなかった人は全体の約27%（399/1502）程度。
- ・“2番目に多かった”のみで見ると、最多は「映画」となっているが、次に多いのは「文化遺産・歴史的建造物」となっている。



#### <鑑賞の頻度>

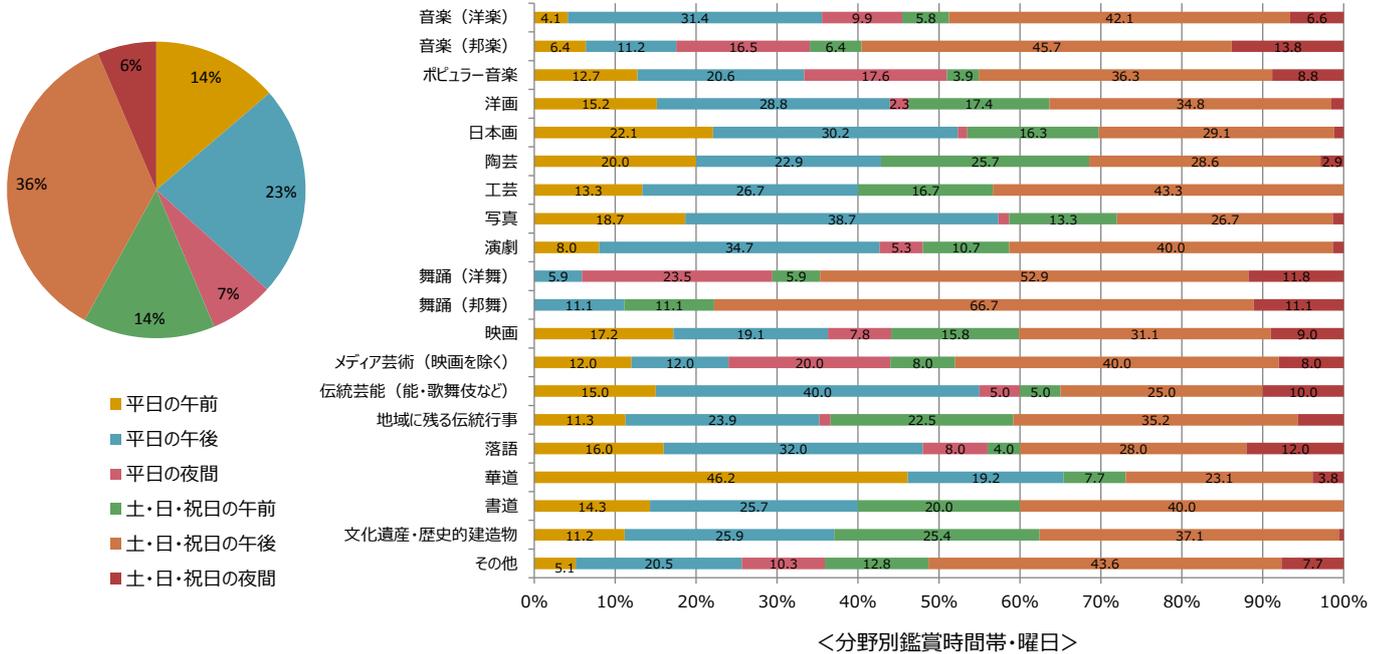
- ・“最も多かった”、“2番目に多かった”を合わせて鑑賞頻度をみると、全体的には「年1回」「年に2~3回」で60%を占める。
- ・2~3ヶ月に1回以上鑑賞している方が50%を超えている分野は、「メディア芸術」「音楽（洋楽）」「舞踊（邦舞）」である。



<分野別鑑賞頻度>

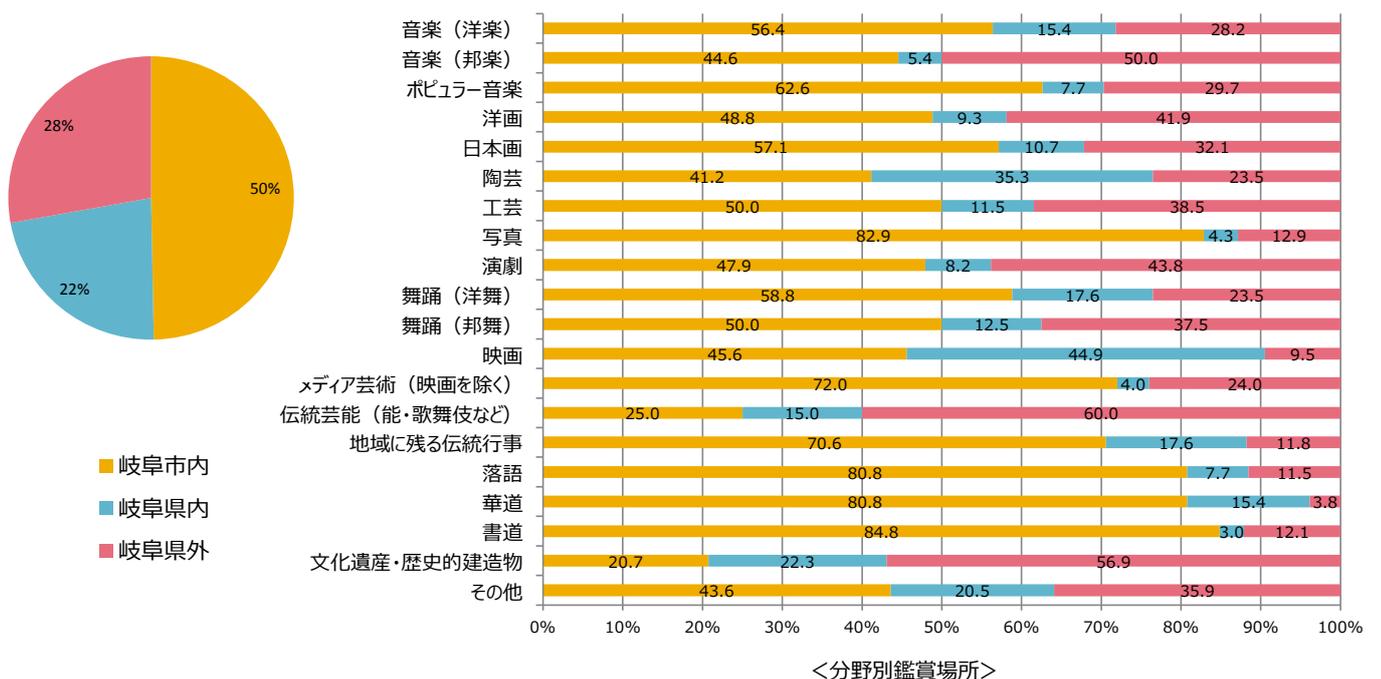
## <鑑賞した時間帯・曜日>

- ・鑑賞した時間帯・曜日は、「土・日・祝の午後」が最多となっている。平日に鑑賞する人は44%、土・日・祝日に鑑賞する人は56%であり、土・日・祝日の方が多い。
- ・分野別にみると、「華道」「伝統芸能」は60%以上の方が平日に、「音楽（邦楽）」「舞踊（邦舞）」「舞踊（洋舞）」「地域に残る伝統行事」「書道」「文化遺産・歴史的建造物」は60%以上の方が土・日・祝日に鑑賞している。



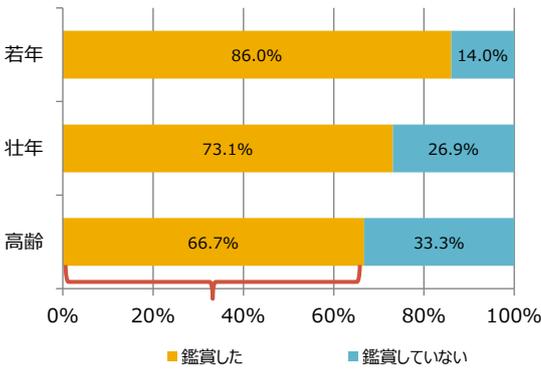
## <鑑賞した場所>

- ・鑑賞した場所は、全分野合計では岐阜市内が50%、県外が28%である。
- ・分野別でみると、「伝統芸能（能・歌舞伎など）」「文化遺産・歴史的建造物」は県外で鑑賞されている割合が高い。
- ・岐阜市内で鑑賞されている分野は「写真」「書道」「華道」「落語」でありそれぞれ80%を超えている。
- ・岐阜県内（岐阜市を除く）が多い分野は「映画」「陶芸」である。
- ・場所については、県外では愛知県、岐阜県内（岐阜市を除く）では各務原など近隣市が高い傾向にある。

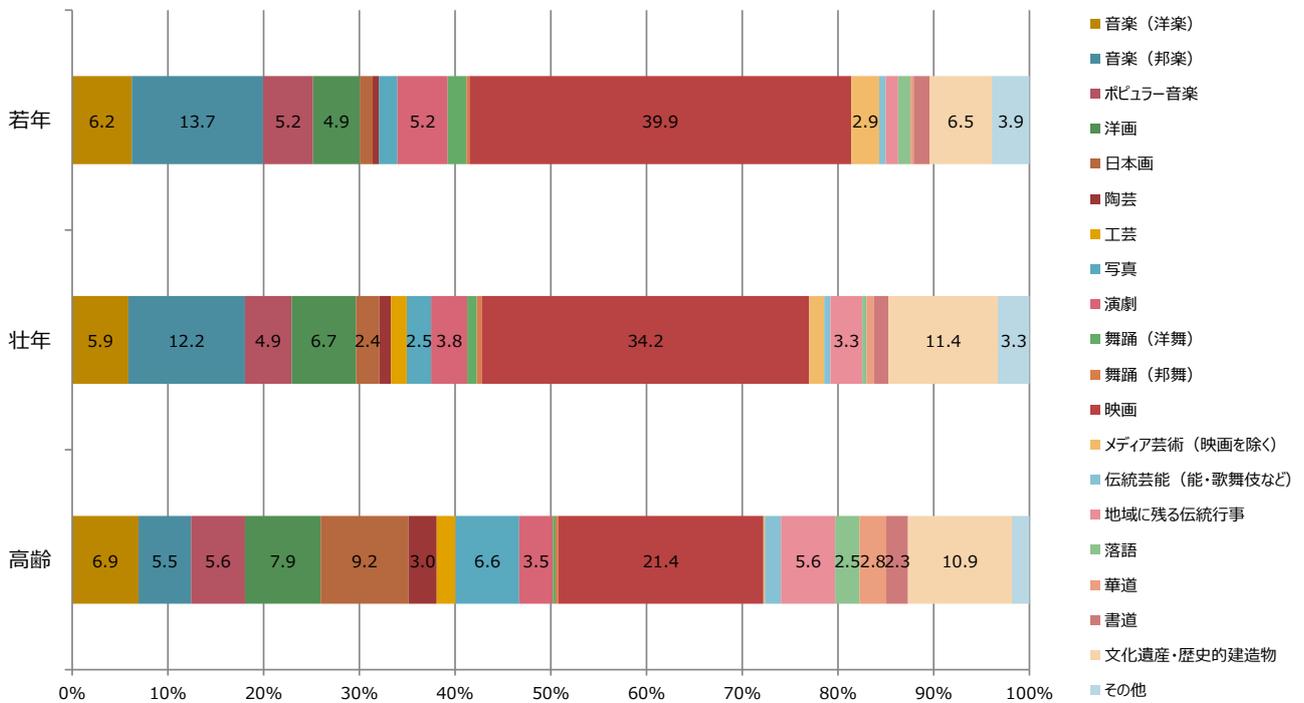


## <年齢別傾向>

- ・年齢別の傾向をみると、若年（10代・20代）、壮年（30代～50代）、高齢（60代～）と年代が上がるほど、「鑑賞していない」の割合が上がる。
- ・鑑賞した分野をみると、若年では「映画」が約40%で最も高い。
- ・壮年、高齢においても「映画」が最も多いのは同様であるが、年代が上がるほどその割合は小さくなっている。



鑑賞した分野



<年代別鑑賞分野>

<年代別鑑賞分野>

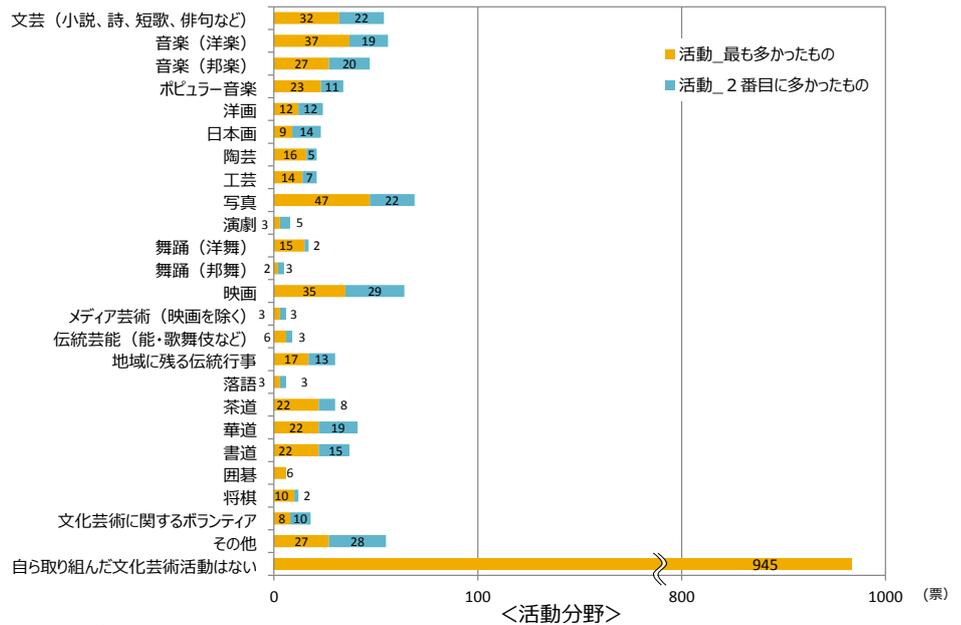
項目	若年		壮年		高齢		全体	
	票数	割合(%)	票数	割合(%)	票数	割合(%)	票数	割合(%)
音楽(洋楽)	19	6.2	53	5.9	49	6.9	126	6.4
音楽(邦楽)	42	13.7	110	12.2	39	5.5	196	10.0
ポピュラー音楽	16	5.2	44	4.9	40	5.6	103	5.2
洋画	15	4.9	61	6.7	56	7.9	135	6.9
日本画	4	1.3	22	2.4	65	9.2	91	4.6
陶芸	2	0.7	11	1.2	21	3.0	37	1.9
工芸	0	0.0	15	1.7	14	2.0	31	1.6
写真	6	2.0	23	2.5	47	6.6	78	4.0
演劇	16	5.2	34	3.8	25	3.5	76	3.9
舞踊(洋舞)	6	2.0	9	1.0	2	0.3	17	0.9
舞踊(邦舞)	1	0.3	5	0.6	2	0.3	9	0.5
映画	122	39.9	309	34.2	152	21.4	592	30.2
メディア芸術(映画を除く)	9	2.9	14	1.5	1	0.1	25	1.3
伝統芸能(能・歌舞伎など)	2	0.7	6	0.7	12	1.7	20	1.0
地域に残る伝統行事	4	1.3	30	3.3	40	5.6	75	3.8
落語	4	1.3	4	0.4	18	2.5	26	1.3
華道	1	0.3	7	0.8	20	2.8	28	1.4
書道	5	1.6	14	1.5	16	2.3	36	1.8
文化遺産・歴史的建造物	20	6.5	103	11.4	77	10.9	204	10.4
その他	12	3.9	30	3.3	13	1.8	57	2.9
合計	306	100.0	904	100.0	709	100.0	1962	100.0

※年齢未記入の回答があるため、全体欄と各年代の合計は一致しない  
端数処理の関係上、割合の合計が100%とならない場合がある

## ② 自宅以外で自ら取り組んだ文化芸術活動（最も多かったもの、2番目に多かったもの）

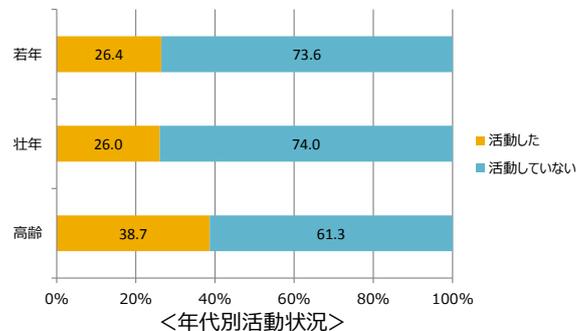
### <取り組み状況、活動分野>

- ・自ら取り組んでいる文化芸術活動は、「ない」が最多で約63%（945/1502）である。
- ・取り組んでいる分野で最も多いのは、「写真」であり、次いで「映画」「音楽（洋楽）」と続くが、全体で見るとそれぞれ5%程度であり、取り組んでいる分野は多岐にわたる。



### <年代別の活動分野>

- ・取り組んでいる文化芸術活動について年代別に見ると、若年（10代・20代）の74%が「活動していない」のに対し、高齢（60代以上）では61%と、何らかの文化芸術活動をしている割合が増える。
- ・“最も多い活動”“2番目に多い活動”を合わせ年代別の活動分野をみると、若年、壮年では「写真」が、高齢では「文芸」がそれぞれ最多である。



<年代別活動分野>

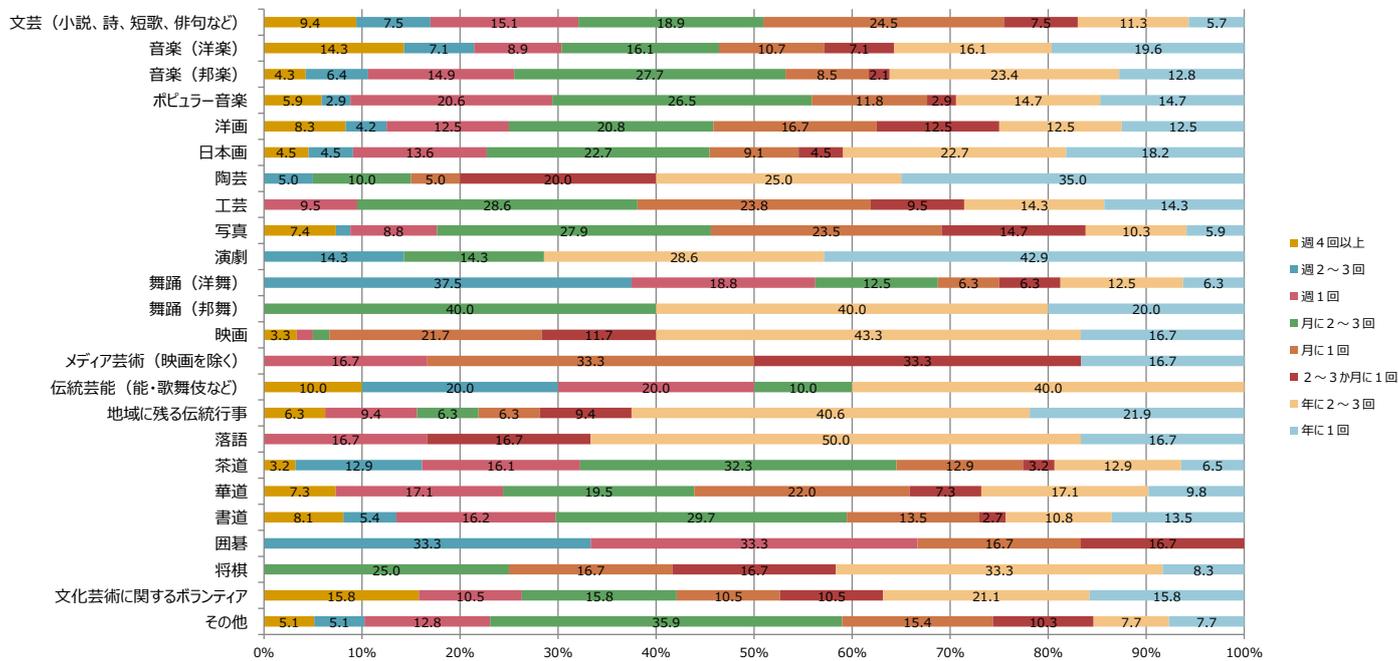
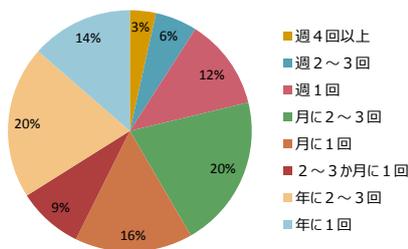
<年代別活動状況>

項目	若年		壮年		高齢		全体	
	票数	割合(%)	票数	割合(%)	票数	割合(%)	票数	割合(%)
文芸（小説、詩、短歌、俳句など）	8	9.6	13	4.7	32	10.1	54	7.8
音楽（洋楽）	5	6.0	26	9.5	24	7.6	56	8.1
音楽（邦楽）	9	10.8	19	6.9	17	5.4	47	6.8
ポピュラー音楽	3	3.6	15	5.5	14	4.4	34	4.9
洋画	4	4.8	9	3.3	10	3.2	24	3.5
日本画	0	0.0	5	1.8	18	5.7	23	3.3
陶芸	1	1.2	9	3.3	9	2.8	21	3.0
工芸	2	2.4	7	2.5	10	3.2	21	3.0
写真	12	14.5	31	11.3	26	8.2	69	10.0
演劇	1	1.2	4	1.5	3	0.9	8	1.2
舞踊（洋舞）	3	3.6	7	2.5	6	1.9	17	2.5
舞踊（邦舞）	0	0.0	3	1.1	2	0.6	5	0.7
映画	7	8.4	30	10.9	24	7.6	64	9.2
メディア芸術（映画を除く）	0	0.0	4	1.5	2	0.6	6	0.9
伝統芸能（能・歌舞伎など）	0	0.0	3	1.1	6	1.9	9	1.3
地域に残る伝統行事	1	1.2	11	4.0	17	5.4	30	4.3
落語	0	0.0	2	0.7	4	1.3	6	0.9
茶道	4	4.8	11	4.0	14	4.4	30	4.3
華道	3	3.6	13	4.7	25	7.9	41	5.9
書道	11	13.3	14	5.1	11	3.5	37	5.3
囲碁	0	0.0	1	0.4	5	1.6	6	0.9
将棋	1	1.2	2	0.7	9	2.8	12	1.7
文化芸術に関するボランティア	0	0.0	8	2.9	9	2.8	18	2.6
その他	8	9.6	28	10.2	19	6.0	55	7.9
総計	83	100.0	275	100.0	316	100.0	693	100.0

年齢未記入の方がいるため、合計欄と各年代の合計は一致しない  
端数処理の関係上、各分野の合計が100%とならない場合がある

### <活動の頻度>

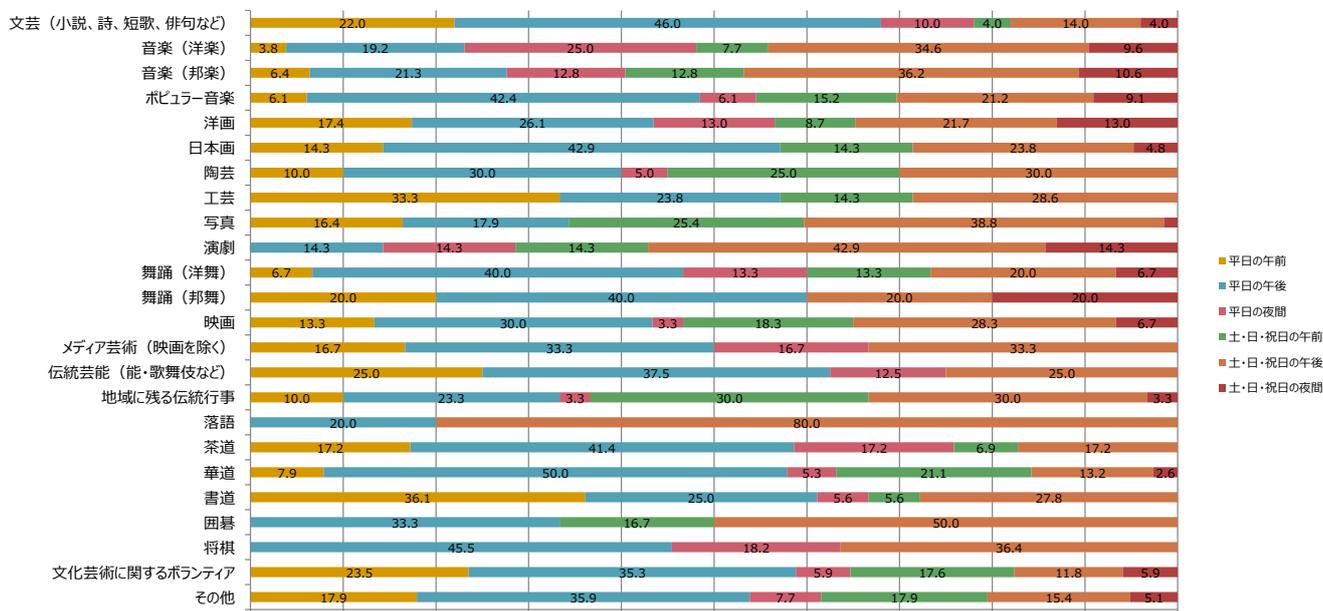
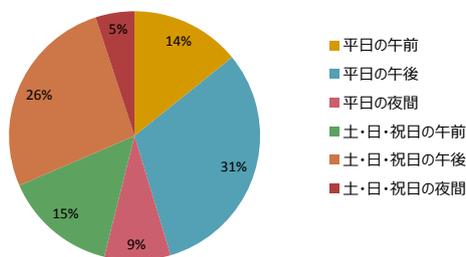
- ・活動頻度は、「月に2~3回」「年に2~3回」が最も多い。なお、57%が月に1回以上の活動を行っている。
- ・分野別にみると、活動頻度が週1回以上の割合が高いのは、「囲碁」「舞踊（洋舞）」「伝統芸能」である。一方、年に2~3回以下の割合が高いのは「演劇」「地域に残る伝統行事」「落語」である。



<分野別活動頻度>

### <活動した時間帯・曜日>

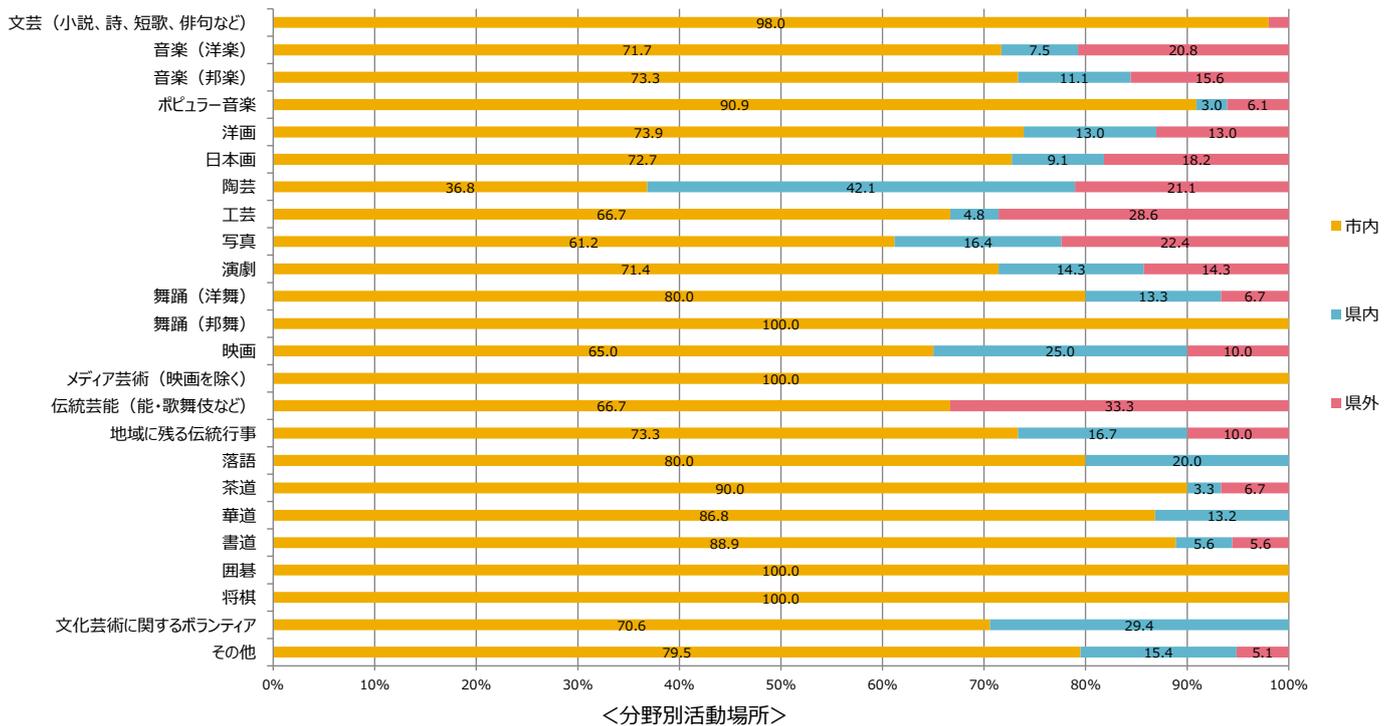
- ・活動した時間帯・曜日は、分野によって傾向が異なるが、「平日の午後」が比較的高い。
- ・平日の活動が多い分野は「文芸」「伝統芸能」「茶道」「書道」、土・日・祝日の活動が多い分野は「演劇」「地域に残る伝統芸能」「落語」「囲碁」である。



<分野別活動時間帯・曜日>

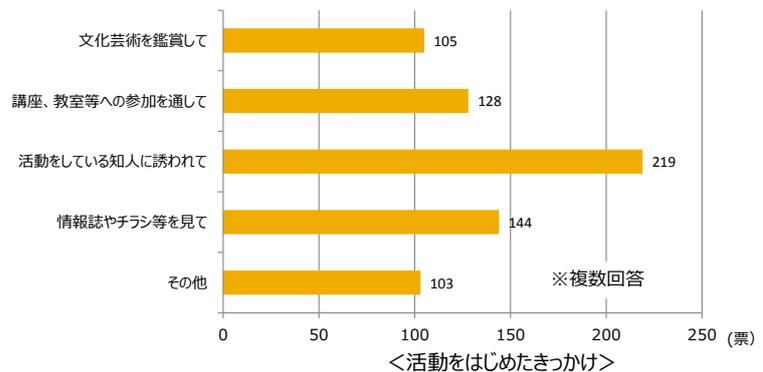
### <活動した場所>

- ・活動した場所は、全体で見ると「岐阜市内」が大部分を占める。
- ・分野別でみると、県外の割合が高いのは「伝統芸能」「工芸」「写真」、岐阜市以外の県内の割合が高いのは「陶芸」「文化芸術に関するボランティア」となっている。



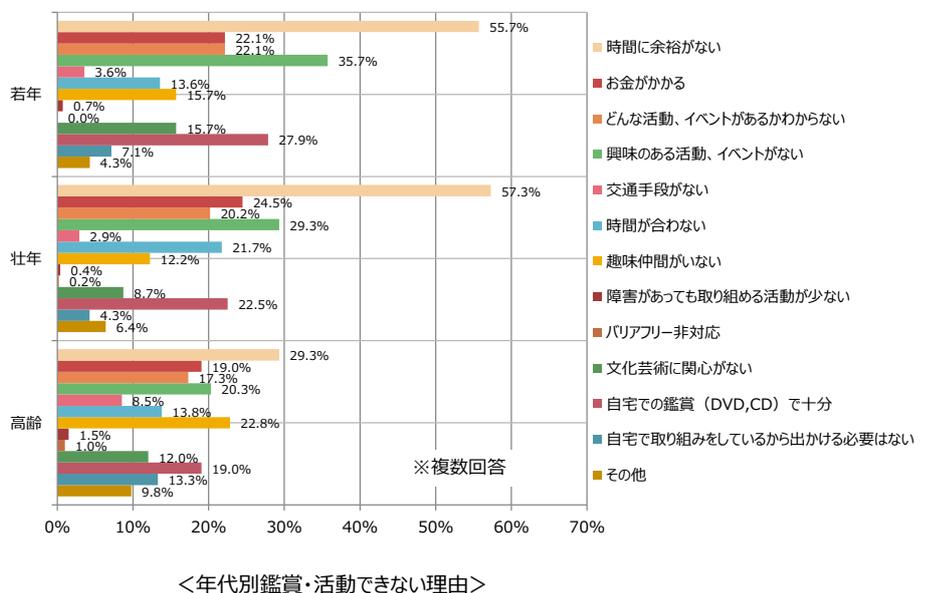
### <活動をはじめたきっかけ>

- ・活動のきっかけは「活動をしている知人に誘われて」が最多である。
- ・次いで「情報誌やチラシ等を見て」となっている。



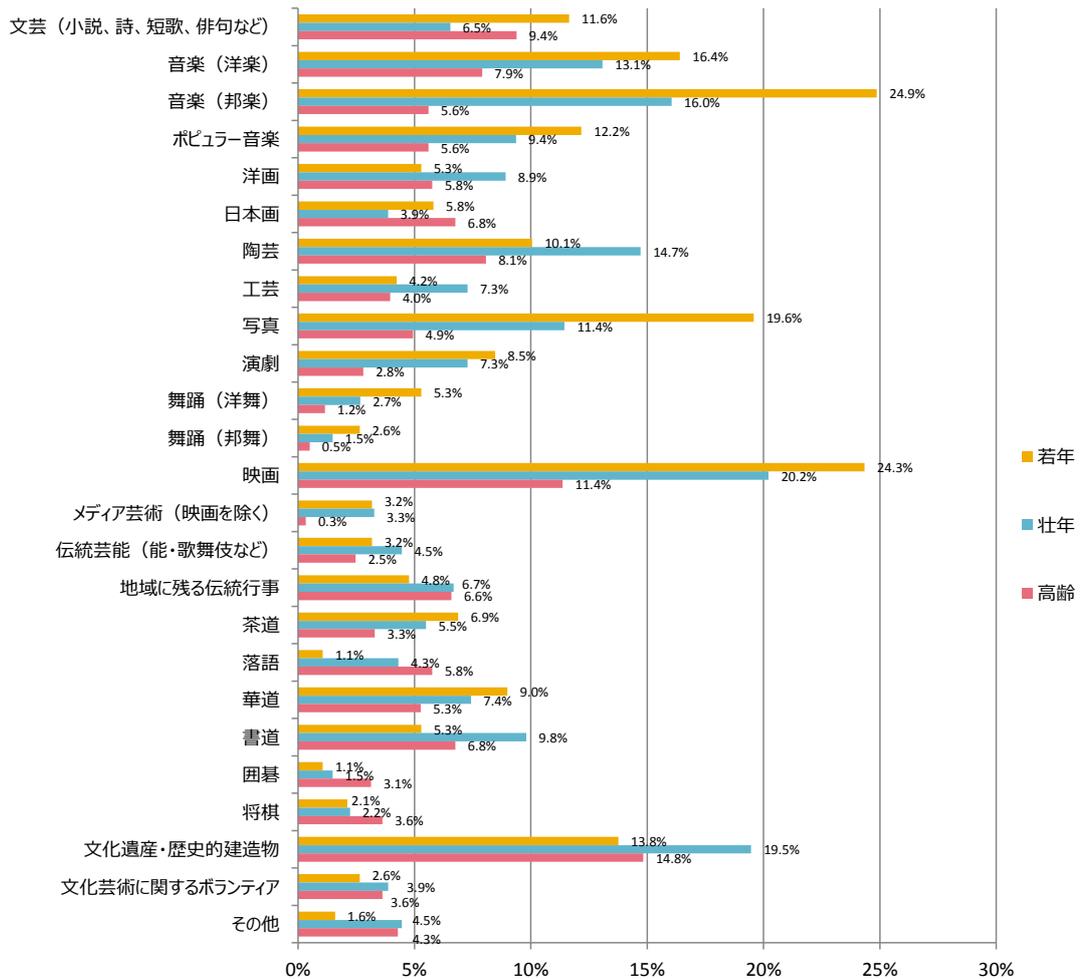
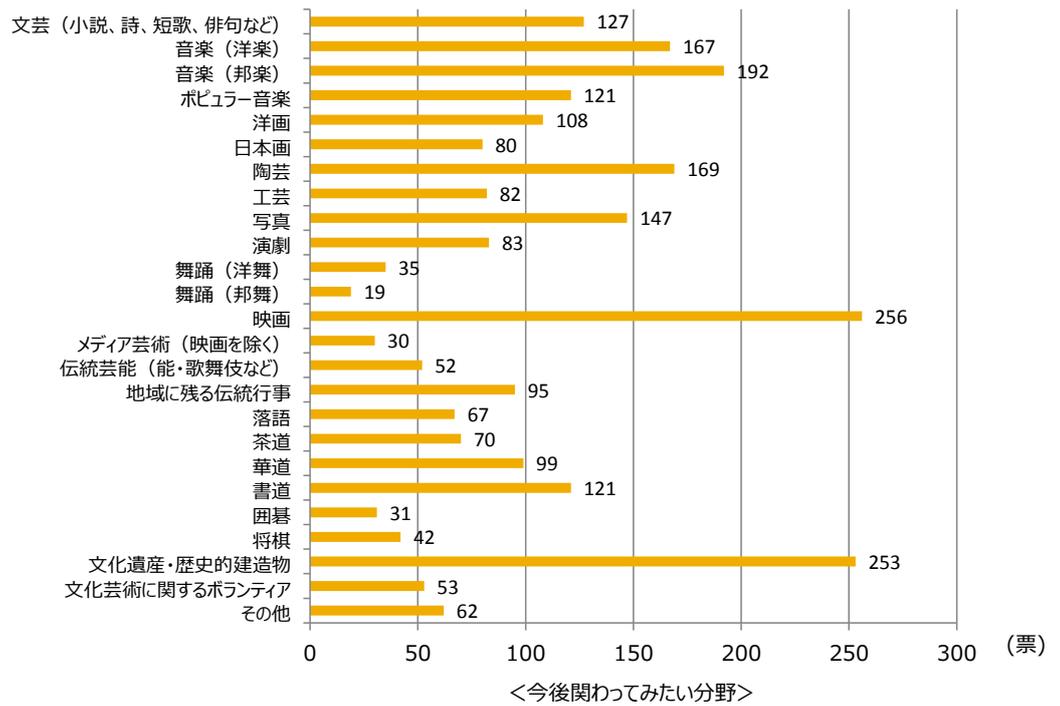
### ③鑑賞、活動をしない、又はできない理由

- ・鑑賞、活動をしない理由としては、「時間に余裕がない」ことを挙げる人が多い。次いで「興味のある活動、イベントがない」が多い。
- ・年代別でみると、若者・壮年では「時間に余裕がない」を挙げる方が多い。高齢は「時間に余裕がない」が最多ではあるが、「趣味仲間がない」を挙げる方が多い。



#### ④ 今後関わってみたい文化芸術の分野

- ・ 今後や関わってみたい分野は「映画」、「文化遺産・歴史的建造物」の2つが高く、次いで「音楽(邦楽)」「陶芸」、「音楽(洋楽)」の順となっている。
- ・ 年代別で見ると、若年は「音楽(邦楽)」「映画」「写真」、壮年は「映画」「文化遺産・歴史的建造物」「音楽(邦楽)」、高齢は「文化遺産・歴史的建造物」「映画」「文芸」がそれぞれ票数の多い分野となっている。



## ⑤文化芸術の関心度

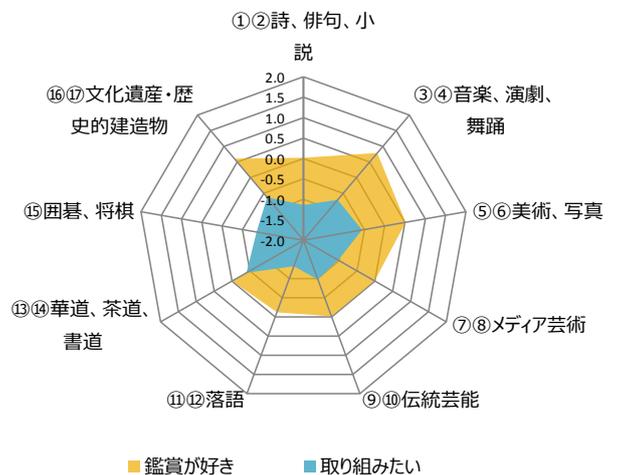
- ・鑑賞に関心の高い文化芸術の分野は、「③音楽、演劇、舞踊」「⑤美術、写真」「⑩文化遺産、歴史的建造物」であり、「③音楽、演劇、舞踊」の鑑賞が好き（「非常にそう思う」「そう思う」の計）と回答した人は約70%である。
- ・取り組みたい・取り組んでいる「②④⑥⑧⑩⑫⑭⑮⑰」を訪ねた設問では、「そう思わない」「全くそう思わない」の回答が多い。

【項目】	⑨伝統芸能を見るのが好き
①詩や俳句、小説などを読むのが好き	⑩伝統芸能の体験をしてみたい、又は習っている
②詩や俳句、小説などを書いてみたい、又はすでに書いている	⑪落語を見るのが好き
③音楽を聴いたり、演劇や舞踊を見たりすることが好き	⑫落語をやってみたい、又はやっている
④音楽、演劇、舞踊を自分でもやってみたい、又はすでにやっている	⑬華道、書道（どちらでも）の作品を見るのが好き
⑤美術や写真の作品を見るのが好き	⑭茶道、華道、書道（どれでも）を自分でもやってみたい、又はやっている
⑥美術や写真の作品を自分でもつくりたい、又はつづっている	⑮囲碁・将棋（どちらでも）を自分でもやりたい、又はやっている
⑦メディア芸術を見るのが好き	⑯文化遺産や歴史的建造物などを見るのが好き
⑧メディア芸術に取り組みたい、又はすでに取り組んでいる	⑰文化遺産や歴史的建造物などの保存や啓発活動をしてみたい、又はやっている



＜分野別鑑賞と取り組みの関心度＞

- ・非常にそう思う：2点、そう思う：1点、どちらともいえない：0点、そう思わない：-1点、全くそう思わない：-2 で回答に重み付けして、文化芸術分野ごとに加算平均をした。
- ・結果、“鑑賞が好き”な分野として「③音楽・演劇・舞踊」「⑤美術・写真」のポイントが高い。
- ・“取り組みたい・取り組んでいる”のポイントが高い分野は「⑥美術・写真」「⑭華道・茶道・書道」「⑰文化遺産・歴史的建造物」である。
- ・“鑑賞が好き”と“取り組みたい・取り組んでいる”の差が小さい分野は「⑬⑭華道・茶道・書道」となっている。

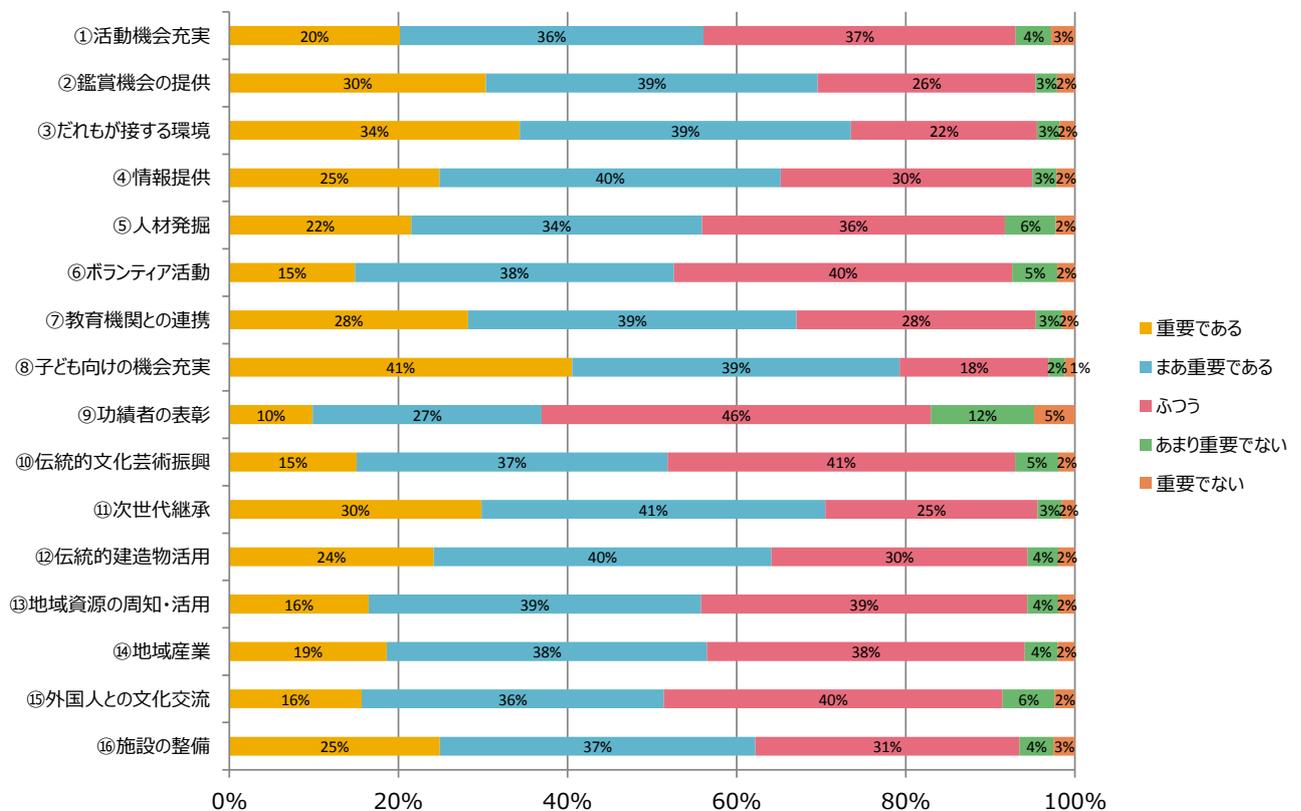


＜鑑賞と取り組みの関係性＞

### 設問3 岐阜市の文化芸術を盛んにするための市の取り組みの重要性

- ・ほとんどの分野において「重要である」「まあ重要である」をあわせると50%を超えている。
- ・特に「⑧子ども達が文化芸術を体感できる機会の充実」を重要であると回答した方が多く、約80%である。

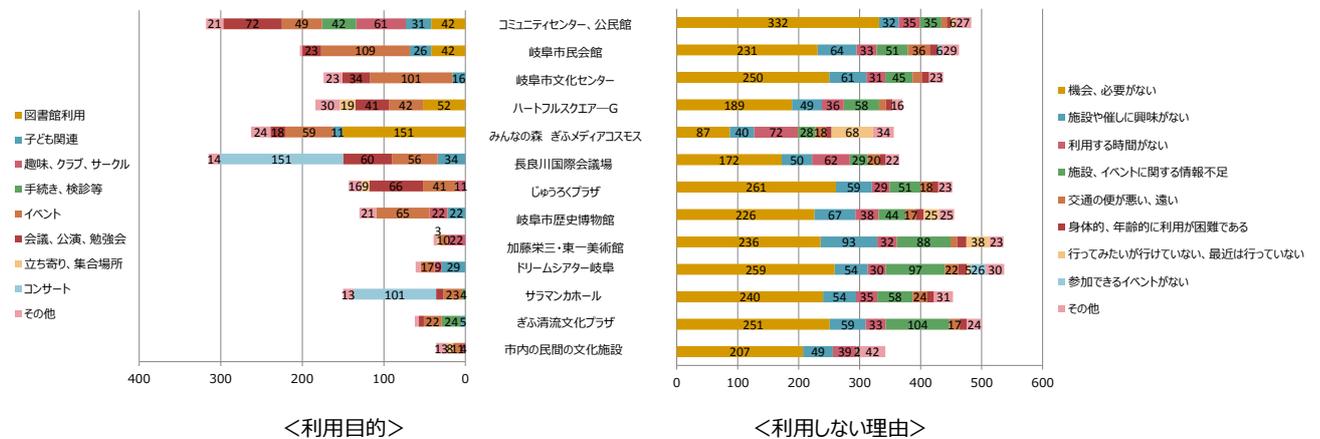
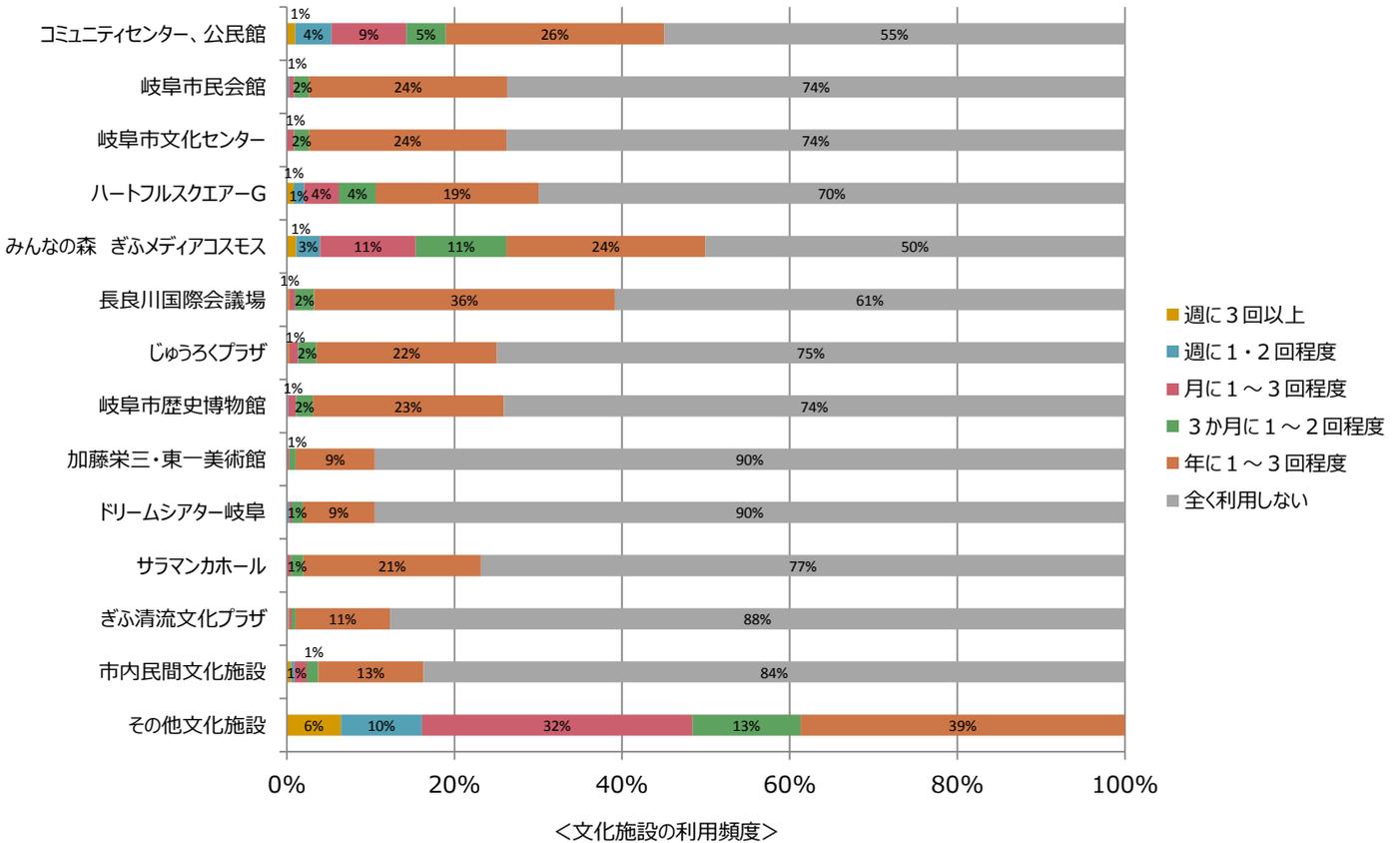
- |   |                         |
|---|-------------------------|
| ①練習・発表・創作等の活動機会の充実                        | ⑨文化芸術の分野に功績のあった人（団体）の顕彰 |
| ②優れた文化芸術の鑑賞機会の提供                          | ⑩伝統的文化芸術の普及、振興          |
| ③子ども、高齢者、障がい者、外国人など誰もが文化芸術に接することができる環境の整備 | ⑪伝統的文化芸術の次世代への継承や後継者の育成 |
| ④文化芸術に関する情報提供                             | ⑫伝統的建造物の活用              |
| ⑤地元アーティストの発掘・支援                           | ⑬地域に息づく文化芸術にかかる資源の周知・活用 |
| ⑥文化芸術ボランティアの活動の場の提供・研修機会の充実               | ⑭文化芸術を活かした地域産業の創出       |
| ⑦教育機関との連携による鑑賞や体験の機会の充実                   | ⑮外国人との文化芸術の交流の促進        |
| ⑧子ども達が文化芸術を体感できる機会の充実                     | ⑯文化施設の整備・充実             |



<市の取り組みの重要性>

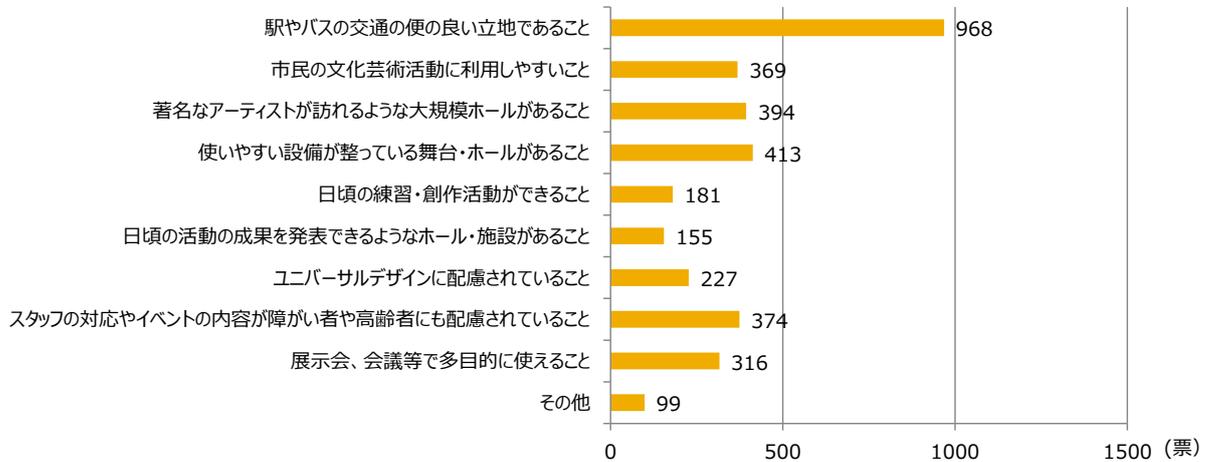
## 設問4 文化施設の利用状況

- ・最も利用されている文化施設は「みんなの森ぎふ メディアコスモス」であり、約50%の方が利用している。
- ・文化施設利用者の利用頻度をみると、いずれの施設も「年に1~3回程度」が最多である。
- ・各施設を利用しない理由を尋ねると、ほとんどの施設で「機会・必要がない」が最多である。
- ・「民間文化施設」はカルチャーセンター等の利用、「その他文化施設」は県の施設や近隣他市町の施設利用等である。



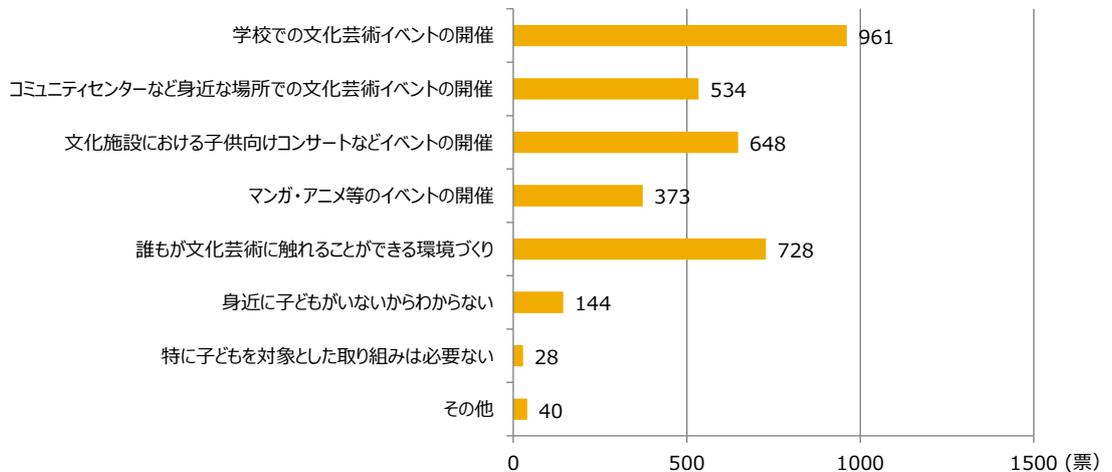
## 設問5 市の文化施設に望むこと

- ・文化施設に望むことで最多は「交通の便の良い立地」であり、他の項目と2倍以上の票差がある。
- ・次いで「使いやすい設備が整っている舞台・ホール」「著名なアーティストが訪れるような大規模ホール」「障がい者や高齢者にも配慮」「市民が文化芸術活動に利用しやすい」が、400票程度で並んでいる。
- ・「その他」の回答には、無料駐車場を求める声がある。



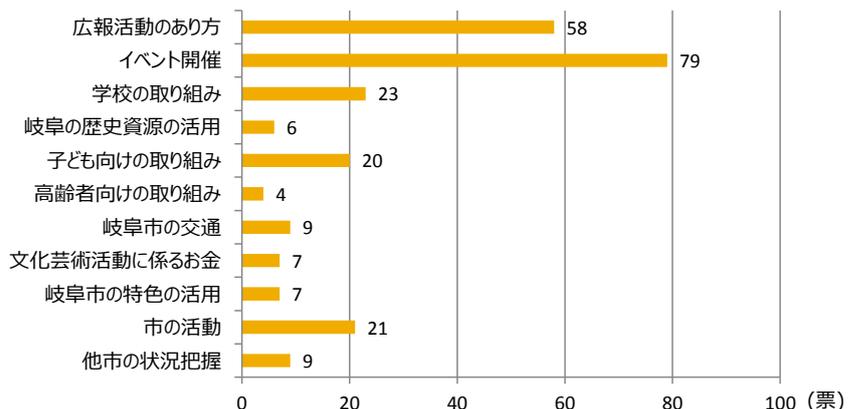
## 設問6 子ども達が文化芸術に関心を持つための取り組み

- ・子どもが文化芸術に関心を持つためには「学校での文化芸術イベントの開催」が有効との回答が最多であり、次いで「誰もが文化芸術に触れることができる環境づくり」の順となっている。
- ・「その他」の回答には「親子で楽しめる機会の創出」という意見が多い。



## 設問7 自由意見

- ・自由意見では、「イベント開催」を求める意見が最も多く、次に「広報活動のあり方」に対する意見が多い。



■調査概要

- 調査方法： 岐阜市内の小学 5・6 年生、中学 1~3 年生  
小中学校に調査票の配布・回収を依頼
- 回収結果： 回答数 1,180 (小学生 571 票、中学生 609 票)
- 調査項目：
  - ・回答者について
  - ・設問 1 文化芸術に対する関心について
  - ・設問 2 文化芸術の取り組みについて
  - ・設問 3 自由意見

回答者について

- ・回答数は小学生と中学生でそれぞれ 571 票、609 票であり、男女比は小学生、中学生ともほぼ同数である。
- ・習い事は、小学生、中学生とも、塾、ピアノ、英語、書道（習字）、水泳（スイミング）が上位である。人数は多くはないが、文化芸術に関する習い事も見られる。

・習い事（小学生）

習い事	回答数	習い事	回答数	習い事	回答数
塾	134	エレクトーン	4	ミュージカル	1
ピアノ	101	学研	4	手話	1
英語	85	バドミントン	4	合唱	1
書道（習字）	72	少林寺	4	琴	1
水泳（スイミング）	66	国語	3	テッサン	1
そろばん	56	ハンドボール	3	合気道	1
サッカー	51	囲碁	2	三味線	1
野球	38	バイオリン	2	将棋	2
くもん	26	ヤマハ	2	生け花	1
バレエ	24	テコンドー	2	相撲	1
テニス	23	ゴルフ	2	ローラースケート	1
ダンス	16	造形	2	ドッチボール	1
空手	14	ロボット	2	トレーニング	1
バスケット	11	ギター	1	メイク	1
太鼓	10	けん玉	1	演劇	1
体操	10	漢検	1	オルガン	1
陸上	8	バトン	1	ボーイスカウト	1
バレエ	7	吹奏楽	1	無回答	125
剣道	7	劇団	1		
絵画	6	スノーボード	1		
新体操	5	格闘技	1		
算数	5	ソフトボール	1		

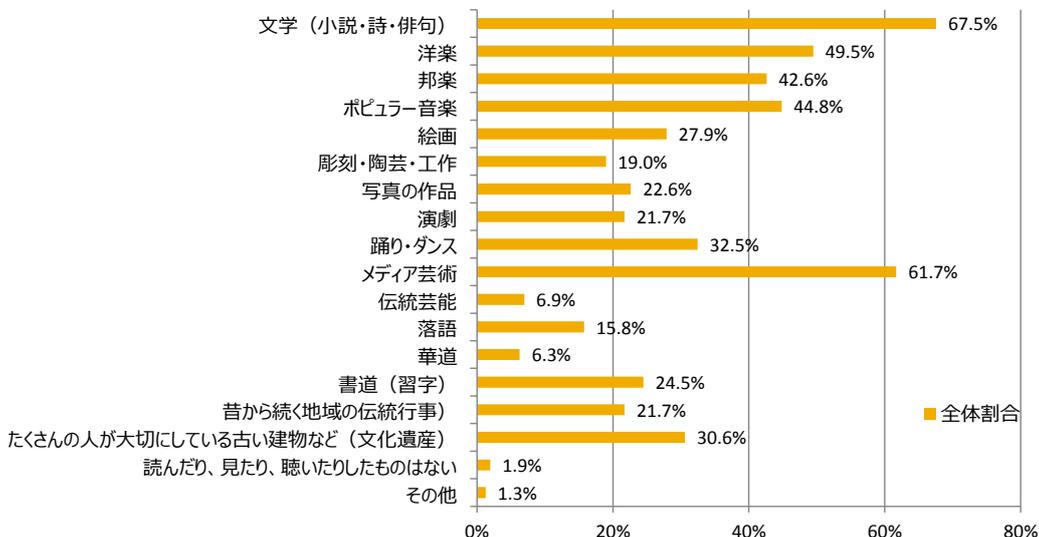
・習い事（中学生）

習い事	回答数	習い事	回答数
塾	180	少林寺	2
ピアノ	55	バレエ	2
書道（習字）	55	卓球	2
英語	29	茶道	2
水泳（スイミング）	24	弓道	2
ダンス	14	バドミントン	1
テニス	13	合気道	1
くもん	9	将棋	1
そろばん	8	スケート	1
サッカー	6	リルフェージュ	1
空手	5	チェロ	1
野球	5	フラダンス	1
ギター	4	ベース	1
陸上	3	ボクシング	1
バスケット	3	音楽	1
柔道	3	算盤	1
剣道	3	華道	1
バイオリン	3	アート	1
生け花	3	囲碁	1
エレクトーン	2	チアリーディング	1
合唱	2	無回答	290

設問 1 文化芸術に対する関心について

①この 1 年間に学校の授業や宿題以外で鑑賞したもの

- ・授業以外で鑑賞した分野は、「文学」が最多であり、「メディア芸術」が続く。
- ・「読んだり、見たり、聴いたりしたものはなし」と回答した小中学生は全体の約 2%であり、一般のアンケート（約 27%）と傾向が異なる（ただし一般は自宅以外に限定）。
- ・小学生と中学生で、傾向は類似しているが、最も異なるのは「昔から続く地域の伝統行事」で小学生 31%、中学生 13%で 18 ポイント差、次いで「絵画」で小学生 34%、中学生 22%の 8 ポイント差であった。



## ②文化芸術の関心、取り組みについて

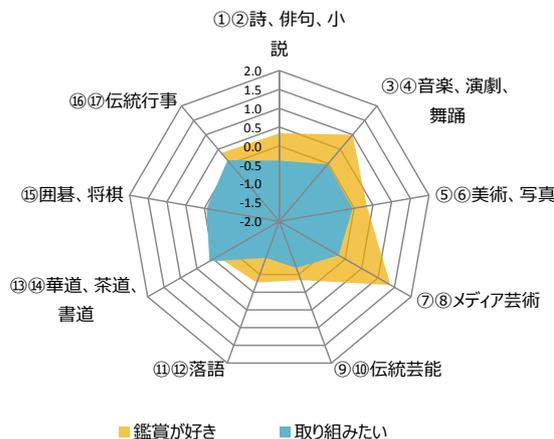
- ・「⑦メディア芸術」の鑑賞が好きという回答が非常に多く、続いて「③音楽・演劇」に関心がある人が多い。
- ・「⑩伝統芸能」「⑫落語」への関心、取り組みの度合いは低い。
- ・「⑯伝統行事」について、小学生は関心を強く持つが中学生は関心がないという回答が多く、関心度に差があった。

- |                                 |                                   |
|---------------------------------|-----------------------------------|
| ①詩や俳句、小説などを読むのが好き               | ⑩伝統芸能の体験をしてみたい、または習っている           |
| ②詩や俳句、小説などを書いてみたい、またはすでに書いている   | ⑪落語を見るのが好き                        |
| ③音楽を聴いたり、演劇や踊りを見たりすることが好き       | ⑫落語をやってみたい、またはやっている               |
| ④音楽、演劇、踊りを自分でもやってみたい、またはすでにしている | ⑬華道、書道（どちらでも）の作品を見るのが好き           |
| ⑤美術や写真の作品を見るのが好き                | ⑭茶道、華道、書道（どれでも）をやってみたい、またはやっている   |
| ⑥美術や写真の作品を自分でもつくりたい、またはつづけている   | ⑮囲碁・将棋（どちらでも）をやりたい、またはやっている       |
| ⑦メディア芸術を見るのが好き                  | ⑯昔から続く地域の伝統行事や古い建物などを見るのが好き       |
| ⑧メディア芸術に取り組みたい、または取り組んでいる       | ⑰昔から続く地域の伝統行事に参加したり、古い建物などの勉強をしたい |
| ⑨伝統芸能を見るのが好き                    |                                   |

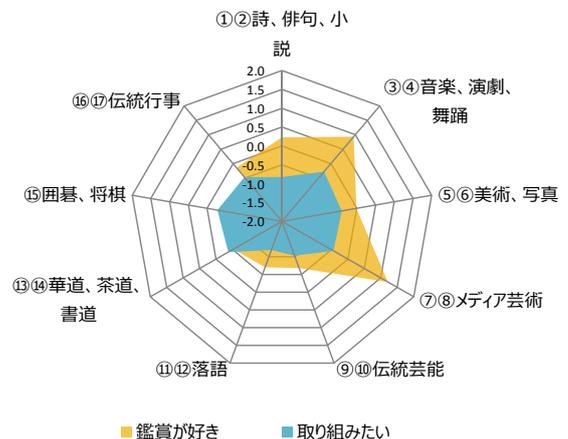


＜分野別鑑賞と取り組みの関心度＞

- ・非常にそう思う：2点、そう思う：1点、どちらともいえない：0点、そう思わない：-1点、全くそう思わない：-2点 で回答に重み付けして、文化芸術分野ごとに加重平均をした結果をみると、「鑑賞が好き」の傾向は類似しているが、「取り組みたい」の回答は小学生の方が全体的にチャートの面積が広く、関心をもっていることが伺える。



＜小学生＞

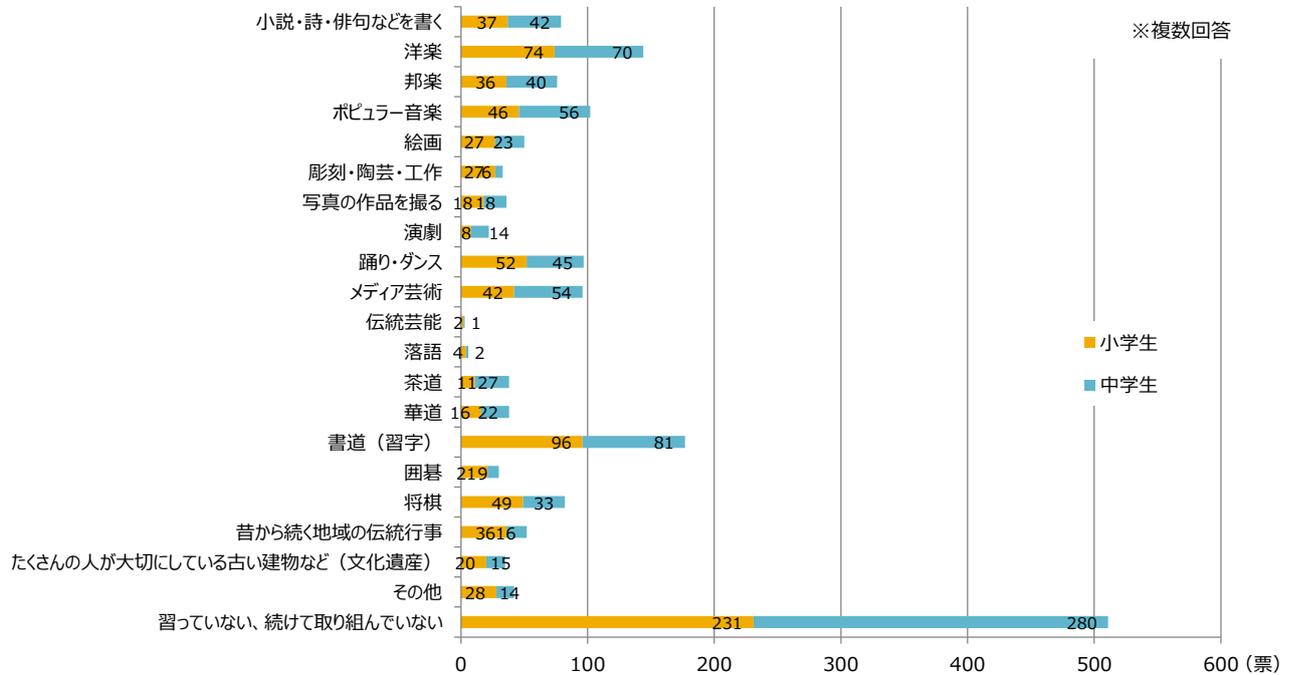


＜中学生＞

## 設問2 文化芸術の取り組みについて

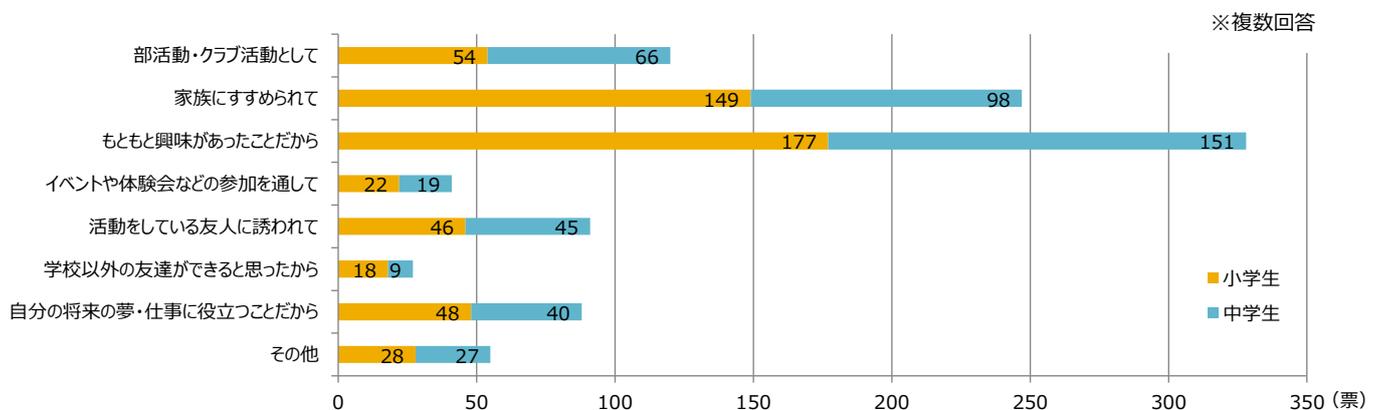
### ① この1年間に習っていたり、続けて取り組んでいたりするもの

- ・「習っていない、続けて取り組んでいない」の回答が最多であり、小学生の約42%、中学生の約51%を占めるが、約半数は何らかの文化芸術に関する取り組み、習い事を行っている。
- ・取り組んでいる分野として最多は「書道（習字）」、以下「洋楽」と続く。



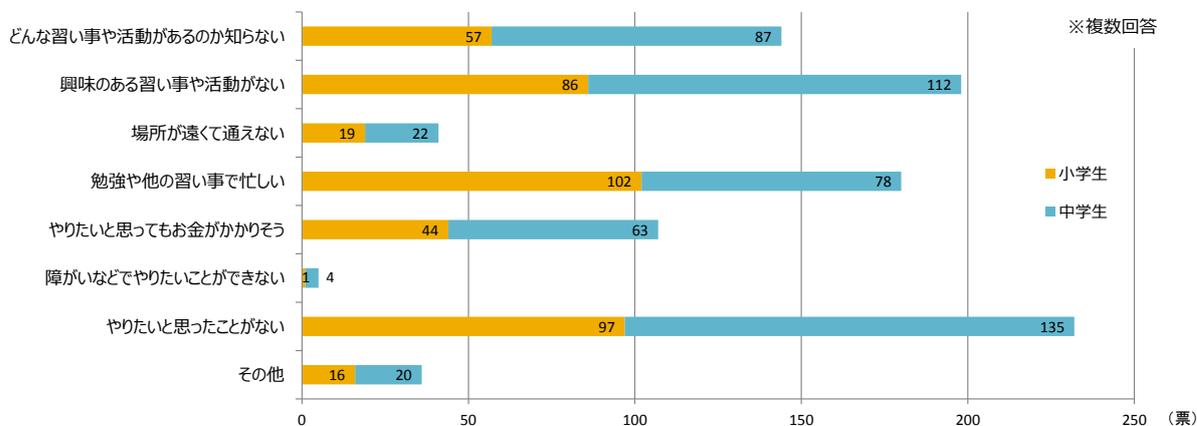
### ② - Aはじめることになった理由

- ・前問①の文化芸術活動をはじめたきっかけは、「もともと興味があったことだから」が最多である。
- ・小学生では、「家族にすすめられて」が、中学生では「家族に勧められて」と「部活動・クラブ活動として」がそれぞれ相対的に高くなっている。



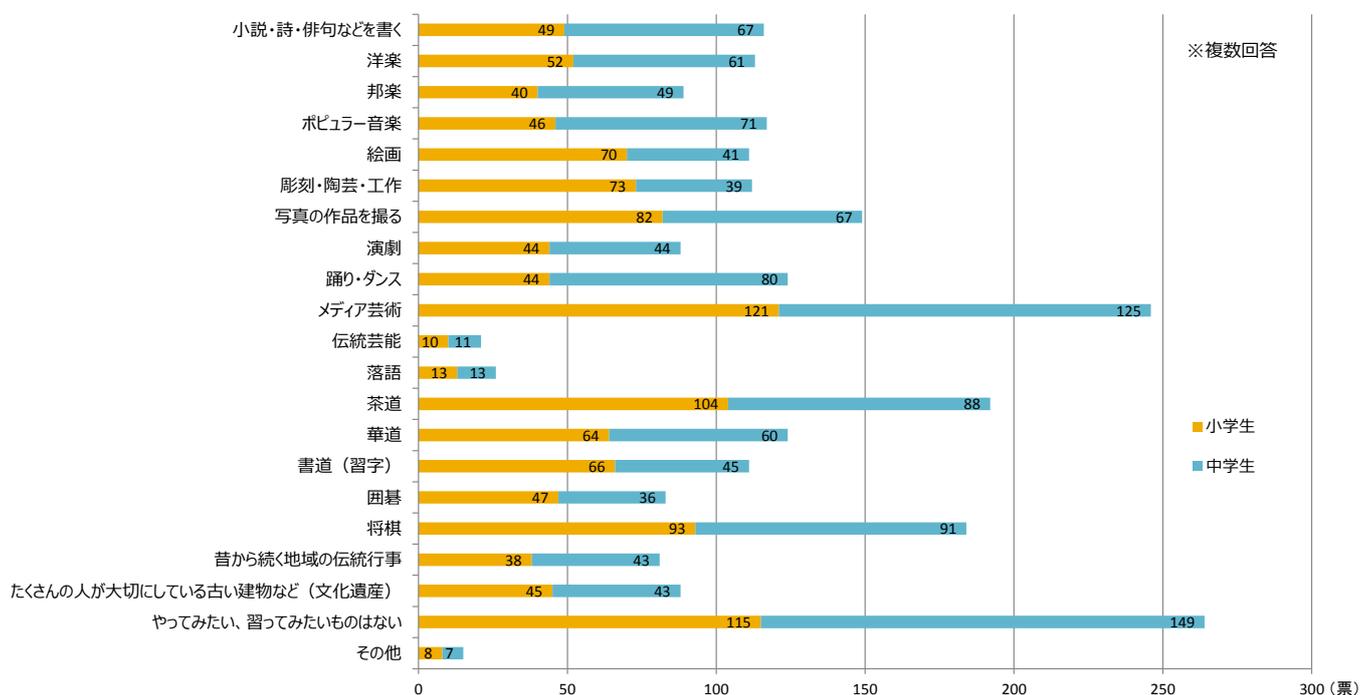
## ②-B 取り組んでいない（できない）理由

- ・取り組んでいない理由は、「やりたいと思ったことがない」「興味のある習い事や活動がない」の回答が多い。
- ・その他の回答には、「どこで出来るのかわからない」「クラブ活動を頑張りたい」等の意見があった。



## ③これからやってみたい、習ってみたいもの

- ・「やってみたい、習ってみたいものはない」が小学生・中学生ともに高く、中学生では最多である。
- ・「やってみたい、習ってみたいものはない」を除くと、設問1①の鑑賞した分野でも多かった「メディア芸術」がこれからやってみたいもので最多である。
- ・次いで「茶道」「将棋」が続いている。



## 設問3 自由意見

- ・自由意見では、文化芸術を鑑賞した際の感想（「すごい」「カッコいい」「やりたいと思った」など）や、文化芸術鑑賞の機会増加の要望、今後やってみたい分野の記載がみられる。
- ・小学生・中学生ともに、伝統芸能や伝統文化・技術を守る必要性や継承に関する意見も見られる。